時事新報

明治十八年十一月二日(月曜日)　辛酉
舊乙酉九月廿六日
日出午前六時二十四分　日入午後五時三分
月出午前一時十六分　月入午後二時二十一分
滿潮午前零時三十分　午後一時十一分
(西暦一千八百八十五年)

一枚金三錢〇一箇月前金六十五錢〇三箇月前金一圓八十錢〇六箇月前金三圓五十錢〇一箇年前金六圓五十錢〇郵稅一箇月金廿六錢一箇年金三圓十二錢〇左ニ揭クル各地ニ於テハ最寄賣捌所ニテ配達致候
東京　横濱　横須賀　浦賀　神奈川　平塚　小田原　藤澤　箱根七湯　大坂
京都　大津　神戸　尾ノ道　藤山　笠岡　岡山　廣島
和歌山　姫路　高知　下ノ關　名古屋　岐阜　岡崎　豐橋
四日市　津　松坂　山田　仙臺　福島　二本松　石ノ巻
函館　青森　弘前　宇都宮　高崎　八王子　千住　草加
越ケ谷　粕壁　杉戸　幸手　久喜　新宿
其他何地方ニテモ配達便宜ノ場所ハ同シク郵送料不申受候

時事新報廣告料(前金)一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上十五日迄	十六日以上卅日迄	卅一日以上
一行ヨリ十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘	六錢四厘
十一行ヨリ五十行	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九五厘	五錢六厘
五十一行ヨリ百五十行	八錢	六錢五厘	五錢八五厘	五錢一五厘	五錢二厘
[illegible]	七錢	六錢	五錢四厘	五錢一厘	四錢八厘

時事新報

食物の改良

近來日本の衣服家屋を改良するの説諸方に起り又其實行をも見受け候へ山人れ喜び此事に候依て茲に序ながら今一ッ願はしきは衣食住三事れ其中に一ッ取残されたる食物改良の事に候抑も我國の食物れ米と魚類と土臺としてあれに伴ふにもろ／＼の不消化物不滋養物を以てし人間れ身体を養ふに第一の必要品と認められたる鳥獣肉の如きは神道佛教の妄誕に迷はされて穢らはしとの罪障に爲るとか言傳へこれと食ふ者極めて稀なり此風代々の習慣遂に性と成し滋養の不足よりして身体の發達を妨げ日本人と云へば男女老若と論せず必ず背低く又黒くして皮膚の光澤なく身の長低く骨格小さく肉瘠せて筋引釣り力量弱はく氣力少なく所謂弱々として病家の病の如きもの皆是れなり身体既に不具なれば其精神も亦固より虚弱なるべき道理にして日本人の事業の粗薬なるれ每々人をして嘆驚仰天せしむるなり試に少し重き仕事と爲行ひ見るべし半年も立つか立たぬに早くも腦病を引起し精神疲勞錯乱して物の用に立たず剩へ肺病に罹らざる者あれば咳嗽吐血を始めて轉地療養も海水浴も其効なく空しく他界れ人と爲る者比々皆然り實に哀れといふもおろかなり斯る事の次第にて社會へ首尾よく衣服家屋の改良と了り家はゴシック形の三階煉瓦家、服は燕尾服羅紗のヅボン　マンテル、二足立のアラビヤ馬に金紋附の馬車を挽らせたりとするも大事の御主人が猫背骨立顔面蒼々たる片輪者にてれ胸の用とも爲すべからず衣物着せたりとて富貴を顯はし得るよ猶あるべき道理なければなり左すれば衣服家屋の改良を急ぐも去る事ながら人間生々の本源たる食物の改良を急ぎする事亦甚だ大切の事なるべし身体先づ強壮にして精神健康と爲り精神身体共に健康にして人間後た一人前れ大精たると得ず一人前の人物たると得ざる身を所持して厚顔しくも今の混雜世界の中に立ち一家一國の獨立幸福を守らんとするれ所謂蟷螂の斧も甚だしきものと云はざると得ず實に食物の改良は一身の爲めにも一國の爲めにも甚だ大切なる事と存候

近來東京市中にては社會改良の氣運に連て人の嗜好漸く肉食に傾き需用の在る所供給來るの理に漏れず新たに西洋料理屋を開店する者先を競ひて各所に起り新聞紙上日として「西洋料理開店」の廣告と見ざるはなし是即ち衣服家屋の改良に連きて食物の改良も亦既に其緒を開きたるの證にして社會の爲め慶賀此上あるべからず殊に喜ぶべきは從前肉食者の稀なりし時節と違ひ當時れ如く斯く需用供給のともに增加するに從て肉食の費用大に減少し從前西洋料理と云へば甚だ奢に屬したるもの今と却て日本料理よりも儉約なりといふまでに至りあれを得るあと亦容易ある一事なり費用減少すれば隨て需用の增加もすべきは自然の道理にして月に日に肉食の區域と廣くして遂に日本食物改良の功と成就すべきは山人の信じて疑はざる所あり時勢既に斯の如し然るに顧みて彼の會席など唱ふる從來れ日本料理店を見るに依然として「米の飯に肴そへて」れ主義と固守し魚の刺身、魚れ鹽燒、魚れ蒲鉾、魚の吸物等にて客の腹と膨くらし滋養の食物とあれば一切差上げ申さずと定め居るは誠に以て歎かはしき次第あり斯る有樣にては食物改良と必要とするの今日西洋料理と日本料理との優勝劣敗の作用を一層劇烈に魚菜主義れ日本料理は必ず速かに滅亡するに相違なからん左りとては甚だ氣の毒千萬の事ならずや依て山人は日本料理屋に忠告と今より俄かに商賣替して西洋料理と開店するより及ばざれどもせめては從來れ調理法を改革して大に滋養品を擇び牛、羊、豚、兎、猪、鹿又と雉子、鳩、鴈、鴨、鶉、雞、鶩七面鳥などの鳥獣の肉と混用するあと爲さば今の時勢に後れずして漸く進化改良をるの望もあらんか否らざれど折角れ日本料理屋も陸の駕籠屋海の和船持と必ず其運命と同うするの日あらんと存候早々頓首

十八年十月廿二日　東京神田　駿臺山人

時事新報記者御中

官報

○元老院議官上野景範氏は昨三十日非職仰付られたり

○來る明治十九年四月一日より五月二十日まで東京上野公園内に於て私設東洋繪畫共進會を開く旨此程東洋繪畫會より東京府へ届出てたり（右二件本年十月三十一日官報）

雜報

○皇宮地附屬地　札幌縣下石狩國札幌區大通西一丁目一番地四千九百餘坪は曾て皇宮地附屬地に編入相成りしが今度該地幷に該地内に建設しある豐平館と同縣より宮内省に引渡済みありし由

○レール設置　大藏省印刷局にては追々事務擴張に付製造品運搬の爲め過般落成したる倉庫迄今度局中よりレールを設る筈にて已に一兩日前より其工事に着手したり

○取締事務所　小間物、袋物、煙管、飾商及び古道具、書畫、古銅鐵、刀劍商等と今度ろの取締事務所を神田小川町三十八番地に設くるよし

○觀菊　昨年れ昨日は席旗と朝嵐に飄へし竹槍と夕陽に閃かして火繩銃を擔ぎ出し豪戸を掠奪し小民と威迫して官軍に抗敵したる彼の埼玉暴徒の蜂起せし一週年なるが同縣下秩父、入間等數郡の人民れ昨年の慘風酸雨に引換へ一般の豐作なるより夫々祝宴を張るべき見込にて府下に寄留の同郡人民は孰れも歸村したるよし

○高松通信（去月廿九日の續き）

教育彙報　彼の協議費を地租五分の一に減じたるより今ハ現在の學校を維持する能はず斷然二三校宛と合併するか將た他に資金を得るの方法を求むるか其邊にては協議中なりと又た當地にては學校受教料は三等に分ち高等科は金十錢中等れ七錢初等は五錢と定まるあらんとの説あり又學務委員衛生委員を廢し戸長の兼務となりしより役場の事務多忙と加へ大いに混雜ありければ戸長役場に學校掛と名くる吏員を設けて學事に關する一般の事務と處理せしめんとの企てあるよし右及べり右等の件々に係りては再三郡長會議と當地に開き又愛媛縣廳に聞きたることも度々ありと云ふ○商況　別段變化はなけれども追々下落の有樣にて白米小賣一圓に付古米一斗六升二合白米一斗七升四合位なり○大洲鐵然師　同師れ數日前當地に來り三日間演説をなし直に京讃に向て出發したり聞く同師は隣讃土阿の四國を遍歴する見込なりと○服飾改良　當地中學校にても體操法と先月來施行し且練兵も近々より始むるよしにて小銃三十挺許りも到着し居る樣子、然し練兵に就てれ從來の服にては萬事不都合ゆゑ洋服に改むるとあなりたりとて市街の洋服店は孰れも繁昌の樣子に見受けらる右生徒の着服は小倉地にて新調すれは靴、內着等一切にて冬服三圓内外なりと云ふ同學現在生徒は一百二三十名あり

○函館通信　十月廿二日函館通信局特發郵報（畢）

當地昨年は寒氣早く生し十月廿五日には初雪降りて外出に羽織合羽と着けたりしも當年は今尚ほ暖氣にて四山漸やく黄落の色と現はしたるまでなり○一週日前當地にて秋季競馬の催しありて二日間施行したり隨分の盛況と見受けたり當季には札幌よりも出馬ありて函の出馬と競爭せし由なりしが殊に札幌馬は好評を得たり○又右競馬の催ふしと全日頃當地谷地頭に於て碧血碑の施餓鬼と施行したり該碑は明治二三年の交此地方にて戰死せし舊幕府人の爲め建立したるものにて今度の施餓鬼は右戰死者の靈魂と弔ふ爲めあれは在函館れ舊幕人幷に舊會津藩の人士二三十名谷地頭の故事徳川にて懇親會と開きたるよし○當函館港にて是迄人民の會議所様のものありしが昨年來土地の有志者發起して町會所設立の計畫をなし區民一般の贊助を得て彌々其建築を富岡町なる眺望絶佳の處に取掛りたるが來る十一月下旬までには竣功する見込のよし其建築の費用にとて各銀行會社及び區民より義捐せる金額は六千圓以上に達せり縣廳よりも地所と給與するなど種々の保護と與へたり此の會所は公共の集會々議などの用に供する爲め設立したるものなれども平常は倶樂部の用に當て該倶樂部に建築の術器等を負擔せしむる見込ありと○東京に束髮れ行はるゝ由當地に傳聞してより未だ日も淺きに流行の勢は亦格別のものと見え當港にも女學校の教師生徒其他の婦人束髮に改むる者多く又○北海れ名産なる鹽鮭と追々各地より當港に入荷となり已に東京其他へ積出したるも多し然し石狩地方は一般に不漁の由なれども根室地方は可なりの漁獲ありと云ふ相場

は上景氣にて雖…
○横濱根岸競馬　…
餘り多からず場中…
んに第一番は日本…
の持馬サンライト…
百弗、第二番は日…
騎手下村八郎氏…
て日本馬支那馬…
イト、騎手コレン…
日本馬及び支那馬…
ンライト、騎手吉…
は日本馬二頭立、…
太郎氏にして新馬…
支那馬七頭立、勝…
岡辰吉氏にして…
支那馬四頭立、勝…
して勇將景物」第…
馬須磨、騎手下村…
プ景物百弗」第九…
ン氏の持馬ライク…
季ハンデカップ景…
後五時頃全く本年…

○佳人之奇遇　岩…
小説「佳人の奇遇…
程刻成り日本橋…
明治十二年以來米…
朝したる人なるが…
起草し極きたる…
れよしにて今唯其…
より以て通篇の全…
に就て其一斑を窺…
牙れ若き婦人に…
は愛國の婦人に…
そるの止むべから…
よして今の清朝を…
は日本の壯士よ…
し大に悲憤慷慨…
よ當りふり二冊…
世慣態悲憤の語…
掩ひ懐然又懐然…
すべきものにして…
擁で下すの暇あか…
方適當なるべし又…
ケ事して恰も漢文…
育法に養はれたる…
得さるの箇所必ず…
維新以來の日本を…
の忌諱に觸るゝの…
して、、、、、に…
しての事ならんか…
如き不諱直言…
日本國の一美事…

○飯田國事犯の宣…
第二　被告人村…
と以て明治十…
籌し來れる情…
匿し又被告人川…
が脫籍者たるの…